

## 但馬地域公共交通計画の施策推進のための主な取組（令和 5 年度）

1. 兵庫県	1
施策⑳ 鉄道の利便性向上、利用者数増加の取り組みの実施	
2. 豊岡市	2
施策㉑ 鉄道の利便性向上、利用者数増加の取り組みの実施	
3. 養父市	3
施策㉒ デマンド型交通の導入	
施策㉓ 観光列車・観光周遊バスの運行、交通拠点からの二次交通の充実	
4. 朝来市	4
施策㉔ デマンド型交通の導入	
施策㉕ パーク&ライド駐車場・駐輪場の整備	
5. 香美町	5
施策㉖ タクシーの活用	
施策㉗ 駅待合環境の改善、駅舎の整備・改築、バス待合環境の改善	
6. 新温泉町	6
施策㉘ 鉄道の利便性向上、利用者数増加の取り組みの実施	
施策㉙ 公共交通への利用転換の意識啓発（モビリティ・マネジメントの実施）	

## 基本施策 10.公共交通の利用促進

## 施策③② 鉄道の利便性向上、利用者数増加の取り組みの実施

## 『駅メモ! &amp; アワメモ!』で行こう!

## 兵庫県但馬キャンペーン ひょうこと巡る 山陰線・播但線の旅」の実施

## &lt;主旨&gt;

但馬地域鉄道利便性向上対策協議会(但馬県民局・豊岡市・養父市・朝来市・香美町・新温泉町)は、JR西日本兵庫支社と共同で、但馬地域の鉄道利用促進の一環として、(株)モバイルファクトリーが運営する位置情報連動型ゲーム「ステーションメモリーズ!(通称:駅メモ!)」「駅メモ! Our Rails(通称:アワメモ!)」とのコラボキャンペーンを実施

## &lt;概要&gt;

山陰線や播但線の駅、沿線の観光スポットを巡るデジタルスタンプラリーを実施。対象の駅や観光施設チェックインすることで獲得するイベントポイント数に応じて、ゲーム内アイテムをプレゼント

・実施期間 令和6年2月23日～9月23日

・対象駅(12駅)

播但線：寺前駅、生野駅、竹田駅、和田山駅

山陰線：八鹿駅、江原駅、豊岡駅、城崎温泉駅、竹野駅、香住駅、餘部駅、浜坂駅

・対象施設(15か所)

豊岡市：植村直己冒険館、玄武洞公園、絶景温泉北前館\*

養父市：道の駅ようか但馬蔵、明延鉦山、養父神社

朝来市：史跡生野銀山、鉦石の道神子畑交流館「神選」、情報館「天空の城」

香美町：大乘寺、ジオパークと海の文化館、道の駅あまるべ

新温泉町：湯村温泉荒湯、山陰海岸ジオパーク館、まち歩き案内所「松籟庵」\*

## &lt;キャンペーン企画&gt;

- ・オリジナルキャラクター「但馬ひょうこ」の登場
  - ・ラッピング列車の運行(播但線:寺前～和田山、山陰本線:豊岡～浜坂)
  - ・車内・駅での特別装飾・展示
  - ・ノベルティプレゼント
- 下線部施設、たじまわる\*、豊岡市立コウノトリ文化館\*、京都丹後鉄道豊岡駅\* \*(協賛者)では、オリジナルグッズ提供



## 基本施策 10.公共交通の利用促進

## 施策③ 鉄道の利便性向上、利用者数増加の取り組みの実施

## JR山陰本線利用促進策創出ワークショップ

## &lt;取組状況&gt;

JRローカル線維持・利用促進検討協議会で取りまとめた利用促進策の方向性を踏まえ、地域特性やニーズをさらに深掘りし、実効性のある持続可能な利用促進策を地域と協働して検討・実行することを目的としたワークショップを5回開催。実現可能となった施策から適宜実施。

## &lt;実施時期&gt;

2023年5月～10月

## &lt;実施結果&gt;

第1回 5/13 参加者32名 第2回 6/17 参加者29名  
第3回 7/8 参加者26名 第4回 9/9 参加者22名  
第5回 10/21 参加者20名

○参加者を6グループに分け、グループごとに利用促進策を検討

- グループ1 春夏秋冬3番線活用計画
- グループ2 閉じ込める“絵にもかけない美しさ”浦島太郎になろう！！
- グループ3 小中学校乗車体験
- グループ4 豊岡市民はJRに乗って城崎温泉へ行こう！
- グループ5 竹野海岸イベント企画
- グループ6 竹野駅で何かずっとやってる！？

## &lt;効果&gt;

WSで出された利用促進策の実施

- ・12月21日(木)～1月31日(水) 竹野駅前広場ライトアップ
- ・1月20日(土) イルミネーション点灯イベント実施 約100名来場
- ・小中学校乗車体験については、令和6年度から「トライやる・ウィーク」と連携を目指し、市教育委員会と調整中。
- ・その他の利用促進策についても、関係各所と調整。



ワークショップ



竹野駅前広場ライトアップ



イルミネーション点灯イベント

## 基本施策 10.公共交通の利用促進

## 施策③ 鉄道の利便性向上、利用者数増加の取り組みの実施

## 「乗って守ろう！竹野駅ペイ」の実施

## &lt;取組状況&gt;

JR山陰本線利用促進策創出ワークショップの先行事業として、JR竹野駅の売上増加と地域振興を目的に、竹野駅での切符購入者に購入金額に応じ竹野地域内の観光施設、宿泊施設、飲食店等で使用できるクーポン券（100円/1枚）を配布

## &lt;実施時期&gt;

2023年8月～2024年2月

## &lt;実施結果&gt;

## 【配布実績】

- 8月1日 クーポン券の配布開始（1万枚配布予定）
- 10月7日 配布予定枚数に到達
- 10月18日 第2弾としてクーポン券の配布開始（1万枚配布予定）
- 12月下旬 2万枚配布完了

## 【換金実績】

12月末実績 1,003,700円 換金率50.2%  
利用可能店舗数30店舗

## &lt;効果&gt;

竹野駅での乗車券類等販売実績

2023/2022比較

8月**142.0%** 9月**128.3%** 10月**149.0%** 11月**151.7%**  
12月**136.6%**

2023/2019比較

8月**98.5%** 9月**71.5%** 10月**149.7%** 11月**111.5%**  
12月**133.7%**

- ・クーポン券の配布開始から約2か月で当初予定していた配布枚数に到達。
- ・想定を上回る売れ行きで、急遽第2弾として追加配布を開始。竹野駅での乗車券類等販売実績もコロナ前の約94%まで回復。
- ・R6年度中の実施を目標に、山陰本線沿線の香美町並びに新温泉町と連携し、お互いの地域で特典が受けられる施策として実施を協議中。



## 基本施策 2.地域の实情に合わせた交通手段の導入

### 施策⑤ デマンド型交通の導入

#### 養父市関宮小さな拠点づくり共創プラットフォーム事業

- 事業内容** 養父市関宮地域では、路線バス、コミュニティバス、自家用有償運送事業（やぶくる）、タクシーが運行しているが、必ずしも地域ニーズに応える交通体系にはなっていない。将来にわたり持続可能な公共交通を地域住民の乗車体験を通じて検討するため、**デマンド交通実証実験を行う**。（地域交通共創モデルプロジェクト）
- 実施時期** 10月下旬～11月上旬（14日間）
- 実施主体** 養父市、NPO法人但馬を結んで育つ会、全但バス株式会社、NPO法人養父市マイカー運送ネットワーク、社会福祉法人養父市社会福祉協議会、一般財団法人日本自動車研究所、セイノーホールディングス株式会社
- 実施結果** デマンド車両 利用延べ人数259人（対象エリア人口の約1割）
- <効果>
- ・将来の公共交通のあり方を地域住民に自分事として考えていただく機会になった。
  - ・今後は、乗車体験を通じた地域住民の意見等を踏まえ、デマンド交通の実装に向けて取り組む。
  - ・利用者の声
    - 「予約する手間をかけてでも希望する時間に送迎をしてくれるのはとても便利」
    - 「バスでは時刻表の都合で普段行きにくいエリアでもデマンド交通を使えば気軽に行くことができる」
- <課題>
- ・実装に向けては複数回の実証実験が必要。交通事業者、地域住民、各種団体を交えた議論を継続する必要があること。

## 基本施策 8.観光交通としての利便性向上

### 施策⑳ 観光列車・観光周遊バスの運行、交通拠点からの二次交通の充実

#### 定額観光タクシーを活用した公共交通利用促進事業

- 事業内容** ひょうごD.Cに合わせ、養父市への来訪者に対し、**市内公共交通への利用助成（定額観光タクシー）と市内映画ロケ地をイメージしたロケ弁提供**により、鉄道およびJR八鹿駅からの2次交通利用促進を図る
- 実施時期** 8月～11月末
- 実施主体** 養父市
- 実施結果** 定額観光タクシー 利用延べ人数68人



【時間制定額観光タクシー養父市観光協会HP】

- <効果>
- ・ひょうごD.Cに合わせた本キャンペーンの実施により初めて鉄道で養父市を訪れたという利用者の声が多く確認できる等、鉄道の利用促進に一定の効果があったものと思われる。
  - ・利用者の声
    - 「こういったキャンペーンがあれば旅行をする際の検討材料になる」
    - 「駅から先の交通に困っていたので助かる」
- <課題>
- ・キャンペーンの周知には時間がかかる。より効果的に事業を行うためには事前の準備や広報活動が必要であること。

## 基本施策2.地域の实情に合わせた交通手段の導入

## 施策⑤ デマンド型交通の導入

## 市内公共交通体系の再編

## &lt;取組状況&gt;

○市民アンケートや公共交通ワークショップ、まちづくりフォーラムなどで得られた市民意見を基に、朝来市地域公共交通網形成計画に基づいた第3次再編指針を策定。

○市内公共交通体系の再編を実行中。

## &lt;再編内容&gt;

○「アコバス」を廃止し「デマンド型乗合交通」を新たに導入。

○市内で乗降場所が完結する路線バスについて、利用状況を踏まえながら再編を検討。

➡交通事業者との協議中。

## &lt;課題&gt;

○各エリアとも、試験運行で課題等を洗い出しながら、半年後の本格運行に繋げる。

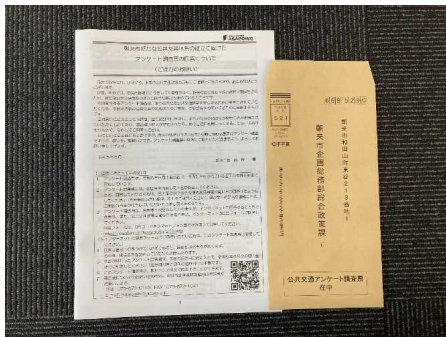
## &lt;次年度以降の取組予定&gt;

○生野エリア 令和6年 4月1日～試験運行  
10月1日～本格運行

○朝来エリア 令和6年10月1日～試験運行  
令和7年 4月1日～本格運行

○和田山・山東エリア  
令和7年 4月1日～試験運行  
10月1日～本格運行

市民アンケート(市内全世帯)



公共交通ワークショップ(市内2会場)



まちづくりフォーラム(市内11会場)



## 基本施策5.交通結節点における利便性の向上

## 施策⑱ パーク&amp;ライド駐車場・駐輪場の整備

## 2 ①特急はまかぜ利用者専用パーク&ライド駐車場 ②JR竹田駅駐輪場屋根設置

## &lt;取組状況&gt;

①令和4年度から、市民による特急はまかぜの利用促進を図る目的で補助金制度を創設している。

令和5年度は、特急はまかぜの利用促進を後押しするため、市が駅周辺の駐車場を借り上げ、無料駐車場として提供している。

②JR竹田駅駐輪場に屋根を設置することにより、駅利用者の利便性の向上に繋げる。

## &lt;取組実績&gt;

①事業内容 特急はまかぜを利用する市民の自家用車等の駐車場が、事前予約により無料で利用できるサービス。

駐車場の台数 和田山駅：3台分、生野駅：3台分

利用実績 和田山駅：150件、生野駅：75件(12月末現在)

②11/28～供用開始

## &lt;今後の取組方針&gt;

①特急はまかぜ利用者に対する運賃助成制度やパーク&ライド駐車場が好評なことから、引き続き実施する。

②市内駅周辺環境整備を行うことにより、鉄道利用者の増加に繋げる。

パーク&amp;ライド駐車場(和田山駅)



JR竹田駅駐輪場屋根設置



## 基本施策 2.地域の实情に合わせた交通手段の導入

### 施策⑥ タクシーの活用

#### 障害者手帳等所有者へのタクシー割引事業の実施

##### <取組状況>

- ・ 障害者手帳等所有者へのタクシー割引事業を実施

##### <事業概要>

- ・ 助成対象者 身体障害者手帳等所有者
- ・ 助成金額 助成対象者が町内で利用したタクシー料金の半額を助成
- ・ 利用実績 561件（令和5年12月末時点）
- ・ 利用者の声  
「買い物等で日常的に利用するので非常に助かっている」

##### <課題>

- ・ タクシー会社の営業所がない地域でどのように運用するか

##### <次年度の取組予定>

- ・ 引き続き助成制度を運用し交通弱者への移動支援を行うこととする

## 基本施策 5.交通結節点における利便性の向上

### 施策⑩ 駅待合室環境の改善、駅舎の整備・改築、バス待合環境の改善

#### 駅待合環境の改善

##### <取組状況>

- ・ 香住駅の待合環境の改善と地元住民の鉄道利用の意識を醸成し、鉄道の日常利用の増加と駅の賑わい創出を目的にピアノを設置するとともに、「ステーションライブラリープロジェクト」を実施

##### <事業概要>

- ・ 待合室利用者が自由に利用できる「駅ピアノ」を設置
- ・ 香住駅待合室に設置した本棚にプロジェクト参加者が思い入れのある本や誰かに読んでもらいたい本を持ち寄り「ステーションライブラリー」を設置し、駅利用者と地域住民とのつながりを作るプロジェクト

##### <今年度の実績>

- ・ 香住高校生による「私ら香住も駅も好きだしけー！フェスタ」を開催。駅待合室をカフェにして賑わいの創出を行った。

##### <次年度の取組予定>

- ・ 引き続きプロジェクトを実施し、駅周辺の賑わいなどの創出に取り組む。



# 基本施策 10.公共交通の利用促進

## 施策③② 鉄道の利用性向上、利用者の増加の取組みの実施

### 鉄道往復利用支援事業

#### <取組状況>

- 浜坂駅から豊岡駅、城崎温泉駅、鳥取駅まで往復で利用する町民に対して、片道分の運賃を支援する事業を実施
- 7月～9月の計4日実施し、133人が利用

#### <効果>

- 町民の鉄道利用のきっかけづくりに繋がる
- JR山陰本線の利用促進に繋がる

#### <課題>

- 鉄道を継続的に利用してもらえる仕組みづくりが必要

#### <次年度の取組予定>

- 鉄道往復利用支援事業の継続実施

#### 事業実施の様子



# 基本施策 10.公共交通の利用促進

## 施策③② 鉄道の利用性向上、利用者の増加の取組みの実施

### 特急はまかぜ利用助成金事業

#### <取組状況>

- 町民が特急はまかぜを利用した際の乗車券等の運賃を助成
- 浜坂駅を発着とした乗車券及び特急券等の運賃総額の3割を助成

#### <効果>

- 特急はまかぜの利用促進
- 新たな需要（利用者）の発掘
- 利用者数：332人（令和5年12月末時点）

#### <課題>

- 特急はまかぜのダイヤ編成（始発便及び最終便が浜坂駅発着ではないため不便）

#### <次年度の取組予定>

- 事業の継続
- 浜坂～鳥取間についても、利用助成を検討

#### 広報チラシ

**新温泉町特急「はまかぜ」利用助成金をご利用ください!**

新温泉町では、町民の皆さまの鉄道利用機会の増加と鉄道利用の維持に理解を深めていただくため、特急はまかぜを利用した際に、発着駅が浜坂駅の一部を支援する新特急利用助成金を創設しました。ぜひ、この助成金を活用し、特急はまかぜをご利用ください。

■助成対象者  
新温泉町民の方

■助成対象経費  
(1) 新温泉利用の方が特急はまかぜを利用する際に片道分の普通乗車券または特急乗車券及び特急利用料(乗車券)を払い、当日(又は翌日)に片道分の普通乗車券(又は特急乗車券)を払い、片道分として鉄道利用する場合に限り。例えば、浜坂駅から普通列車で浜坂駅まで行き、浜坂駅から特急はまかぜに乗車し大船駅に行く場合は浜坂駅からの運賃が対象となります。

(2) 助成対象は、乗車及び特急利用料金の総額の3割です。

(3) 助成対象日は、令和5年4月1日利用分からとなります。

■申請の手続き  
特急はまかぜを利用した日の翌日から30日以内に「新温泉町特急はまかぜ利用助成金交付申請書(乗車券)」を記入し、当日(又は翌日)に片道分の普通乗車券(又は特急乗車券)を納入し、併せて特急乗車券(又は特急利用料)を納入してください。

申請書の写りを提出後、ご指定の銀行口座へ助成金を振り込みます。  
※1 特急利用料は乗車券と同様に現金で支払ってください。 ※ 併付ホームページからダウンロードしていただく、後援企業様窓口または運賃納付窓口でお受け取りください。  
※ かつらぎ特急券を所持する際は、併付した駅の乗降券(無人駅やワンマン列車等の場合)に「新温泉町」と記載してください。 ※ 忘れずお持ちください。

※ 大船駅、自動改札機設置の駅では、かつらぎ等自動改札機に記入せず、駅の係員にお伝えください。

■助成金の額  
① 宗谷線～大船駅間を往復利用した場合：片道利用6名券 ※ 令和5年4月1日以前の運賃  
• 普通乗車券 4,070円×片道×2=8,140円  
• 特急乗車券 2,950円×片道×2=5,900円  
• 運賃等の合計 8,140円+5,900円=14,040円  
• 助成金額 14,040円×3割=4,212円(10円未満切り捨て)

■対象にならない場合  
• 新温泉町にある4つの駅を利用していない  
• 宗谷線以外の公共交通等から特急はまかぜの乗車を受けている(受けようとしている)  
• 特急券から乗車料の支払がある

■お問い合わせ先  
新温泉町役所 企画課 電話 82-5624 (直通)

## 基本施策 10.公共交通の利用促進

## 施策③ 公共交通への利用転換の意識啓発（モビリティ・マネジメントの実施）

## 鉄道関連ノベルティの配布

## &lt;取組状況&gt;

- ・ 鉄道関連事業実施時にノベルティを配布
- ・ 鉄道関連事業以外の事業でも配布

## &lt;効果&gt;

- ・ 町民の鉄道への関心及びマイレール意識の醸成に繋がる。

## &lt;課題&gt;

- ・ 町民意識の更なる醸成

## &lt;次年度の取組予定&gt;

- ・ 新たなノベルティの作成について検討

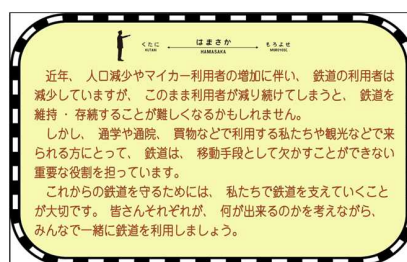
## 各種ノベルティ



利用者に好評だったトートバッグ  
とフオルディングファン



駅銘板デザインをプリントした消しゴムと  
利用者に配布したメッセージカード



メッセージカード裏面の内容